

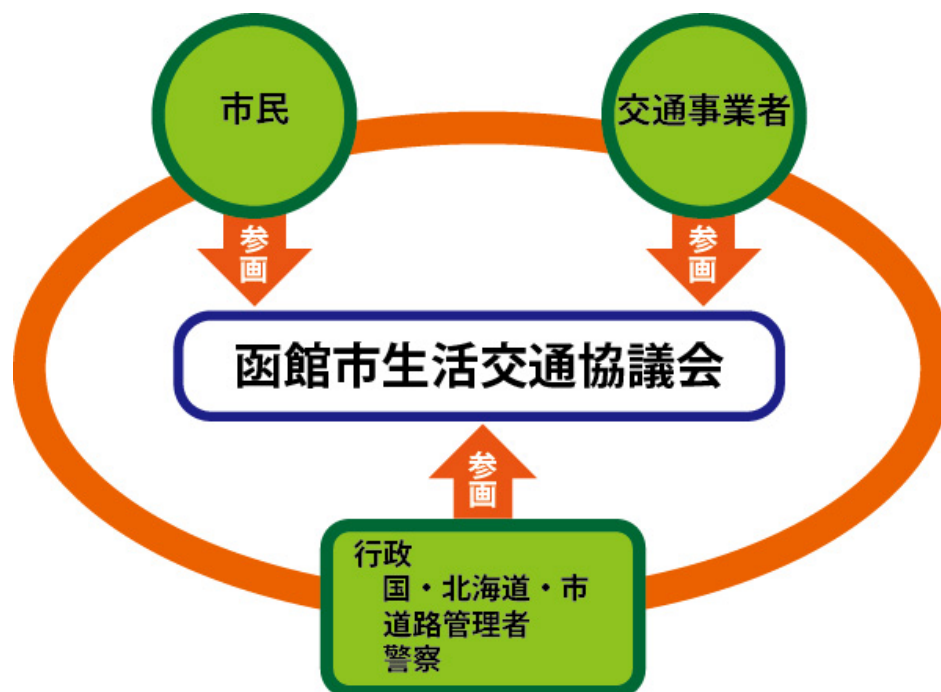
5 実現化方策について

5.1 実現化に向けた検討

公共交通の再編を進めるにあたっては、具体的な路線やダイヤ、料金設定や交通拠点の設置位置、施設整備の内容など、詳細な検討が必要であるため、交通事業者や行政などこれまで以上の連携を取りながら、将来にわたって持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通のあり方を検討していく。

5.2 検討の推進体制

市民・交通事業者・行政などで構成する「函館市生活交通協議会」において、構成員がそれぞれの役割を果たしつつ、相互に連携を図りながら地域公共交通の再編に向けて検討を進めていく。



5.3 公共交通関連施策の検討

(1) 関連施策の一覧

函館市地域公共交通総合連携計画で示した具体的な推進施策の体系のうち、本計画の前章で詳細な検討をしている施策（密接に関連する施策を含む）や中長期の実施を予定しているもの、低床車両の導入など既に実施しているものを除く以下の施策について検討を行う。（「●」の項目）

■交通結節機能の向上による効率的な交通ネットワークの構築

- ・ バス路線網の再編（前章で検討）
- ・ 系統番号の見直し（「バス路線網の再編」と密接に関連）
- ・ 交通結節点の整備（前章で検討）
- ・ 東部地区バスの運行形態の見直し（前章で検討）
- ・ デマンド方式の導入（中長期の実施予定）

■利用環境や走行環境の改善によるサービスレベルの向上

- 停留所・停留場の上屋整備
- 情報発信の充実
- 乗継割引制度の充実
- I Cカードの導入
- ・ 低床車両の導入（既に実施）
- ・ 始発・終発時刻の延長（「バス路線網の再編」と密接に関連）
- ・ 朝夕の急行便の運行（「バス路線網の再編」と密接に関連）
- 均一料金制・ゾーン料金制の導入
- ・ バスレーン・公共車両優先システムの導入（中長期の実施予定）

■新たな需要創出に向けた利用促進・市民意識の醸成

- 出前講座の実施
- おでかけマップの作成
- ・ ノーマイカーデーの推進（既に実施）
- ・ イベント開催や企画切符の販売（既に実施）

基本方針	利用環境や走行環境の改善によるサービスレベルの向上
施策名	●停留所・停留場の上屋整備
実施場所	函館市内の停留所・停留場
実施予定時期	平成28年度以降
実施概要	<p>利用客数や地域特性、まちづくりの観点など、整備の必要箇所について優先順位をつけながら計画的に整備を進める。</p> <p>中心市街地においては、函館市中心市街地活性化基本計画に基づき、デザイン性が高く、景観に配慮したバス停・電停の整備を進める。</p> <p>全国の事例では、バス停上屋の側面を広告版として活用し、その広告収入を設置費用や維持管理費用に充てるといった手法も取り入れられており、整備手法や管理手法について、関係者と検討を行う。</p>
効果	快適な待合環境の整備によって利便性が向上し、公共交通の利用喚起・促進が図られるほか、乗り継ぎ抵抗感の解消にもつながる。
実施手順	<p>STEP1：設置位置の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数、地域特性等を調査 ・道路幅員や周辺の土地利用などを調査 ・調査結果を基に設置位置を選定 <p>STEP2：設置設備の設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置設備のデザイン等について、地域住民と協議 <p>STEP3：維持管理方法の確定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者もしくは地域団体等による管理も検討 <p>STEP4：設置</p> <p>STEP5：PDCA サイクルによる検証・改善</p>
課題（他施策との調整含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・「バス路線網の再編」により、利用者数の増減も予想されることから、再編案の進め方と併せて検討を行う必要がある。 ・「情報発信の充実」と併せて、バスロケーションシステムの設置も検討する。

基本方針	利用環境や走行環境の改善によるサービスレベルの向上
施策名	●情報発信の充実
実施場所	函館市内バス停
実施予定時期	平成28年度以降
実施概要	<p>バスロケーションシステム設置個所の拡充を進めるほか、医療機関や商業施設などには、運行情報を表示する案内の設置について検討する。</p> <p>バス路線の再編と併せ、公共交通機関相互の乗継ぎを含めた路線検索や到着時刻案内が可能なシステムの構築を進める。</p>
効果	<p>乗り継ぎダイヤや待ち時間がわかりやすくなり、待ち時間を有効に活用できる。</p> <p>公共施設や病院などの既存施設に設置することで、バスが接近するまで施設内で待機することができ、待ち時間の苦痛が軽減される。</p>
実施手順	<p>STEP1：設置位置の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数、地域特性等を調査 ・公共施設・民間施設の管理者への設置ニーズの確認 ・調査結果を基に設置位置を選定 <p>STEP2：バスロケーションシステムの端末の設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端末の情報デザイン等について検討 <p>STEP3：維持管理方法の確定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者もしくは地域団体等による管理も検討 <p>STEP4：設置</p> <p>STEP5：PDCA サイクルによる検証・改善</p>
課題（他施策との調整含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・「バス路線網の再編」により、利用者数の増減も予想されることから、再編案の進め方と併せて検討を行う必要がある。 ・「停留所・停留場の上屋整備」と併せて、上屋の設置も検討する。

基本方針	利用環境や走行環境の改善によるサービスレベルの向上
施策名	<ul style="list-style-type: none"> ●乗継割引制度の充実 ●均一料金制・ゾーン料金制の導入
実施場所	函館市内完結バス路線
実施予定時期	平成28年度以降
実施概要	<p>ゾーンバスシステムの導入に向け、乗り継ぎが発生しても割高にならないような料金体系および乗継割引制度の充実を図る。</p> <p>東部地区における運賃負担の軽減のほか、均一料金制やゾーン料金制の導入について、収支採算性を見極めながら、交通事業者と導入に向けた協議を行う。</p>
効果	<p>乗継割引制度の拡充により、乗り継ぎ負担の軽減や抵抗感の解消につながる。</p> <p>運賃負担の軽減により、バス利用の促進・拡大が図られる。</p>
実施手順	<p>STEP1：サービスレベルの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線再編の状況や利用者のシミュレーションを基に、利便性と収益性から、料金などのサービスレベルを設定する。 <p>STEP2：事業者間の調整等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者間で新料金設定について協議を行う。 ・運輸局と新料金設定に協議を行う。 <p>STEP3：システムの設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな料金システムとするための設計を行う。 <p>STEP4：実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に利用者に対する説明を行う。 <p>STEP5：PDCA サイクルによる検証・改善</p>
課題（他施策との調整含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・「バス路線網の再編」により、利用者数の増減も予想されることから、再編案の進め方と併せて検討を行う必要がある。 ・「ICカードの導入計画」と併せて、システムの設計についても検討が必要。

基本方針	利用環境や走行環境の改善によるサービスレベルの向上
施策名	● I Cカードの導入
実施場所	路線バス，市電
実施予定時期	平成28年度以降
実施概要	<p>公共交通機関の I Cカードシステムは，平成25年3月からは I Cカード10社による全国相互利用が始まり，利便性が格段に向上している。</p> <p>電車については，公営の軌道事業者のうち， I Cカードを導入していないのは，本市を含めごく少数となっており，バスについては，導入を検討しているゾーンバスシステムにおける乗り継ぎの際には I Cカードを活用することにより利便性向上に大きく寄与することとなる。</p>
効果	<p>I Cカードの導入により，料金精算の煩わしさを解消し，スムーズな乗降や乗継割引の設定が可能となり，サービス向上のほか，定時性の確保も期待される。</p> <p>ゾーンバスシステムの導入にあたり，乗り換え利便性の確保が期待できる。</p> <p>また，来年3月の北海道新幹線開業によって来函する，関東・東北方面からの観光客等は，既に I Cカードの所有率も高いことから，利便性の確保が期待できる。</p>
実施手順	<p>STEP1： I Cカードの仕様の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者間で協議を行う。 ・交通料金助成などの既存の制度の取扱いについても検討 <p>STEP2：事業者の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザルによる選定 <p>STEP3：実施</p> <p>STEP4：PDCA サイクルによる検証・改善</p>
課題（他施策との調整含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・「バス路線網の再編」の進め方と併せて検討を行う必要がある。 ・「乗継割引制度の充実」，「均一料金制・ゾーン料金制の導入」と併せて， I Cカードの仕様を検討する必要がある。

基本方針	新たな需要創出に向けた利用促進・市民意識の醸成
施策名	<ul style="list-style-type: none"> ●出前講座の実施 ●おでかけマップの作成
実施場所	市内一円
実施予定時期	平成27年度以降
実施概要	<p>【出前講座の実施】</p> <p>将来的に公共交通を利用する小学生や中学生を対象とした学校モビリティマネジメントや、町会や市内の事業所などを対象に、環境の面からも公共交通の利用を考えてもらうような講座の開催について、交通事業者や行政など関係機関の連携により、市民等の意識醸成に向けた取り組みを進める。</p> <p>【おでかけマップの作成】</p> <p>だれもが自由に移動できる交通環境社会の実現を目指し、市民の自発的な公共交通の利用を促すため、どんな情報があれば自動車以外で出かけるかという視点から、必要な情報（公共施設や商業施設の位置等）を盛り込んだマップを作成する。</p>
効果	自家用車から公共交通への利用転換による新たな需要の創出が図られる。
実施手順	<p>STEP1：市民のニーズや全国事例を調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような講座が望まれているのか、どのような情報が望まれているのかを調査する。 ・全国の好事例を調査し、その特徴を整理する。 <p>STEP2：実施設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査を基に設計する。 <p>STEP3：実施</p> <p>STEP4：PDCA サイクルによる検証・改善</p>
課題（他施策との調整含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・「バス路線網の再編」や「ICカードの導入」の地域説明会と併せて実施することも考えられる。

5.4 実施スケジュール

方針および施策名	実施時期		実施主体
	短期	中長期	
交通結節機能の向上による効率的な交通ネットワークの構築			
バス路線網の再編	●	●	交通事業者, 行政
系統番号の見直し	●	●	交通事業者, 行政
交通拠点の整備	●	●	交通事業者, 行政
東部地区バスの運行形態の見直し	●	●	交通事業者, 行政
デマンド方式の導入		●	交通事業者, 行政
利用環境や走行環境の改善によるサービスレベルの向上			
停留所・停留場の上屋整備	●	●	交通事業者, 行政
情報発信の充実	●	●	交通事業者, 行政
乗継割引制度の充実	●	●	交通事業者, 行政
ICカードの導入	●	●	交通事業者, 行政
低床車両の導入	●	●	交通事業者, 行政
始発・終発時刻の延長	●	●	交通事業者, 行政
朝夕の急行便の運行	●	●	交通事業者, 行政
均一料金制・ゾーン料金制の導入	●	●	交通事業者, 行政
バスレーン・公共車両優先システムの導入		●	交通事業者, 行政
新たな需要創出に向けた利用促進・市民意識の醸成			
出前講座の実施	●		交通事業者, 行政
おでかけマップの作成	●		交通事業者, 行政, 市民, 協議会
ノーマイカーデーの推進	●		交通事業者, 行政, 市民
イベント開催や企画切符の販売	●		交通事業者, 行政

※短期は概ね5年, 中長期は概ね10年

函館市生活交通ネットワーク計画

平成 27 年 3 月
函館市生活交通協議会

事務局（函館市企画部政策推進課内）
〒040-8666 函館市東雲町 4-13
☎0138-21-3625

